

6年生の授業創造プラン（平成28年度）

	6年生の実態と課題	授業創造プラン	実践記録	成果と課題
国語	<p>【話す・聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアや少人数での話し合いでは、進んで自分の考えを語る児童が多い。 ○相手の目を見て話を聞く姿勢が身に付いている。 ●伝えたいことを端的に分かりやすく話すことに自信がもてない児童が多い。 ●話の中心や要点をとらえながら聞くことに自信がもてない児童が多い。 	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや大勢の前で発表する時には、原稿を作成し、伝えたいことが明確に伝えられるようにする。 ・なるべく短い文で話すようにさせる。 ・大切な話はメモをとって聞かせたり、要点を聞き返して答えさせたりする。 	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや発表は、自ら原稿を作成するようになってきているので、添削し簡潔に堂々と話せるように指導した。 ・要点を確認しながら、話の内容を整理させるよう努めた。 ・学年集会や校外学習では、自主的にメモをとるよう言葉がけするように努めた。 	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全員が大勢の人の前で、スピーチや発表ができるようになった。事前にスピーチ原稿の添削を依頼できるようにしている。 ●学年集会や校外学習などで自主的に記録をとったり、重要な事を書きだしたりできる児童は6割程度にとどまっている。今後も継続的な指導が必要である。
	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○はじめ、なか・おわりの文章構成を意識して書くことができる。 ●作文や意見文、読書感想文などで、自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が数名いる。 	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を考える力が身につくようなワークシートの活用を継続していく。 ・書くことが苦手な児童には、質問をして書く材料を増やしていく。また、様子を何かに例えたり、会話文を使ったりするなど、一つの事実について、様々な表現方法で表現させる。 	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの感想文の添削や作文指導を繰り返して行うことによって、卒業文集(800字程度)は自ら構成を考えて書けるように指導を進めた。 ・原稿用紙に書くことに抵抗がある児童には、パソコンで打ち出させたり、マス目の大きな用紙に書かせたりすることで、抵抗を減らした。 	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業文集では、自分で構成や内容を考え、思いを伝える文章を9割の児童が書けるようになった。また、既習の漢字はもちろん未習の漢字も使って文章を書く児童が増えた。 ●特別な支援が必要な児童には、大きなマスの原稿用紙だけでなく、想像力や記憶力を身に付けるためのワークシートが必要だった。
	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書に親しみ、進んで読書をする姿が見られる。 ○物語文では、登場人物の相互関係や心情を読み取ることができる児童が多い。 ●説明文やテストの問題文の意味を正しく読み取ることができない児童が2割程度いる。 	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠になる箇所をサイドラインを引かせる活動を行い、内容を正しく読み取ることができるようにする。 	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語、伝記、ドキュメンタリーなど、いろいろな本をすすめることで、読書の幅を広げようとした。 ・考えの根拠となる箇所をサイドラインを引かせる活動を、単元を通して繰り返して行うことにより、自ら重要と思うところにラインを引いたりできるよう、言葉かけも行った。 	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読むものに偏りがあった児童も、さまざまな書物に興味を示し、読書の幅が広がっている。 ○自らサイドラインを引いたりマーカーしたりする児童が8割いる。深い読み取りができるようになってきている。
<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字の小テストやまとめテストの正答率が高い。 ●授業中のノートや作文などで、既習の漢字を活用することに課題が見られる。 	<p>【言語事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で新出漢字を使った文章を書かせたり、読書活動を推進したりしながら、漢字に慣れ親しむ環境を整えていく。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用し、既習の漢字や言語の定着を図り、日常生活の中でも活用できるようにする。 	<p>【言語事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で繰り返しの練習を促すため、漢字小テストをほぼ毎時間行ってきた。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用することで、学習の仕方が分からない児童にも、家庭学習の習慣や復習の仕方を定着させるようにした。 	<p>【言語事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分なりに練習方法や学習方法を工夫できるようになり、日常の漢字テストは9割の児童が毎回満点をとれる。 ●長期記憶ができない児童が3割程度いるので、繰り返しの練習や作文指導の継続が重要である。 	
社会	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絵や資料をもとに、歴史上の人物や事柄について考えられる児童が増えてきている。 ●学んだことを整理して要点をまとめることが苦手な児童が多い。 ●自分の考えを書いて表現することに自信がもてない児童が見られる。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、インターネット上の資料等から様々な資料を提示し、共通点や相違点を比べながら、歴史上の人物や事柄について要点をまとめられるようにする。 ・時代の流れを年表や図で表したり、要点を押さえたりする活動を通して、時代背景を想像したり自分の考えを持つことができるようにする。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の人物や事柄がらについて要点をまとめさせたり、校外学習で学んだことを新聞にまとめさせたりする活動から、思考力や表現力を身に付けられるようにした。 ・年表や資料集、地図帳の活用により、時代背景や世界情勢などをとらえられるように指導してきた。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全員が学習内容をノートや模造紙にまとめる時、分かりやすく見やすくまとめる工夫ができるようになってきている。 ○資料集や地図帳への書き込みやマーカーも自らできるようになっている。 ●時事問題や世界情勢について身近な問題にとらえられない児童もいる。資料や新聞などの活用の仕方の指導は継続していく。
	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料から必要な情報を読み取ることができる児童が少ない。 ●資料に書かれた情報を言い換えることに自信がもてない児童がいる。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から情報を読み取る際、注目するべきところをマークしたり、丸で囲ったりさせ、根拠となる部分を明らかにする活動を取り入れる。 ・資料集や辞書を活用し、社会科に関連する語彙を増やす。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料集や地図帳を活用し、資料を注意深く読み取る活動を繰り返して行った。 ・いろいろな資料や新聞記事などを示すことにより、資料の読み取り・語彙を増やす活動を多く取り入れた。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料からさまざまな情報を読み取ることができるようになってきている。 ●社会に関する語彙で、日常的に使わない言葉の定着が難しい。繰り返しの指導が必要である。
	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史上の人物やその人物が行ったことなど、おおむね理解している。 ●時間が経つと記憶があいまいになる児童が多い。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の人物が行ったことについてや時代ごとの様子をノートや新聞にまとめる活動を取り入れ、知識の定着を図る。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用して個別に復習させ、既習事項の定着を図る。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートや新聞にまとめるだけでなく、模造紙に表したりイラストにしたりして知識の定着を図った。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用して、社会科の自主勉強の習慣を身に付けさせた。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全員が学習内容をノートや模造紙などにまとめる際、分かりやすく見やすくまとめる工夫ができるようになってきている。 ○「東京ベーンシック・ドリル」の活用により、社会科の家庭学習を進んで行う児童が増えた。
算数	<p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全員の児童が、自分の考えを図や言葉を使って表現することができる。 ●考えの根拠を書いたり、説明したりしようとするのが苦手な児童が半数見られる。 ●文章題から演算決定をすることに課題が見られる。 	<p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的な価値のあるつぶやきや発言を称賛し、どのように思考したらよいかや思考することのよさに気付けるように「バンク」を活用して指導していく。 ・ペアや少人数で説明する活動を取り入れ、自分の考えを根拠となる図や絵を示しながら友達に説明すること慣れさせる。 ・問題の数値を簡単なものにした。図や数直線で数量の関係を表したりし、演算決定ができるようにする。 	<p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアや少人数で説明させた後、学級全体の前で説明させる活動を多く取り入れ、考え方を広げられるようにした。 ・図や数直線を使って考えたいような問題提示を心がけた。演算決定した後、図や数直線を使って説明させる活動を繰り返して行った。 	<p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアや少人数の話し合いや説明をした後、全体に説明をするようにしたことにより自信をもって自分の考えを友達に伝えることができるようになってきている。 ○習熟度別のクラスでは問題提示の仕方や難易度を変えたことで、どのクラスの児童も意欲的に考えようとするようになった。 ●演算決定をする前の図や数直線を、適したものをかきことができない児童がいる。どのような場面とどのような図が適しているのか、他の児童の図を多く示すことが重要である。
	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項は、おおむね定着している。 ●分度器、コンパスなどの道具を用いた操作に自信がもてない数名いる。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くり返し練習をさせるのではなく、「この数値ではどうだろう」と必要感をもって計算させたり、楽しんで取り組ませたりしながら技能の定着を図る。 ・少人数指導の中で、個別指導をしながら道具を用いた操作が確実にできるようにする。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算や問題を解きたくないような導入や問題提示を工夫し、楽しんで取り組めるように努めた。 ・習熟度別のクラスによっては、個別に道具の使い方を指導した。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全員が、まず自力解決しようとする。友達と相談したり説明し合ったりする活動にも意欲的に取り組み、問題解決にあたる。 ●習熟度別のクラスによっては、中学校へ上がるまでに引き続き定着させなければならない技能や事項がある。
	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項は、おおむね定着している。 ●既習事項が定着していない児童がいる。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で誰ものが答えられる問題を提示し、既習事項を活用・確認できる授業展開にする。 ・「東京ベーンシック・ドリル」を活用して、既習事項の定着を図る。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京ベーンシック・ドリル」を、習熟度のクラスによって、導入で扱ったり、既習事項の定着を図るために扱ったりした。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「東京ベーンシック・ドリル」の活用によって、児童も教師もどの程度習熟できているのか把握することができた。
理科	<p>【科学的な思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験前の予想したり、仮説をもったりする場面では、自然の事物・現象を文字や記号だけでなく、絵や図などを使って考察し、表現している。 ●観察・実験後の結果から結論をまとめる場面では、予想や仮説と関係付けて考察を言語化することが難しい児童がいる。 	<p>【科学的な思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果から結論をまとめる場面では、重さや長さ、数など量的な表現も加味させながら、予想や仮説と関係付けられることができるようにする。 	<p>【思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートやワークシートに自分の考えをまとめる際に、文章で書くだけでなく、図や表にして表すことで、自分の意見を整理させるようにした。 ・「土地のつくりと変化」では、地層そのものを観るということがない児童がいたため、ICTを活用することで、経験不足を補う手立てを行った。 	<p>【思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「流れる水のはたらき」では、流水実験の結果をまとめる際、「大きい粒が下のほうに、小さい粒が上のほうに積み重なっていた。だから、粒の大きさの違う層が重なり合って見えるんだ。」等、結果を基に考察をまとめる児童が増えた。 ●自分自身で予想や仮説を立てることがことが困難な児童が1割程度いる。体験活動の時間を十分に確保するとともに、視覚的な手立てとして、具体物を提示することで、推論しやすくできるようにさせることが課題である。
	<p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験前の予想したり、実験を計画的に実施する中で、実験器具や実験機器などを目的に応じて扱っている。 ●観察・実験の視点がわからないまま、実験の過程や結果記録している児童がいる。 	<p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験器具や実験機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、観察・実験の過程や結果を的確に記録することができるようにする。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限りどの児童も観察や実験を行うことができるよう、実験器具などを数多く準備し、実験回数を増やすことで技能の向上を図った。 ・観察では、どの部分を観察するのか、実験では何を調べるのかを明確にしてから活動に取り組みせるようにした。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第6学年で扱う実験器具である、コンデンサ、LED電球、モーター、手回し発電機、気体検知管、ヨウ素液、顕微鏡、薄い塩酸、薄い水酸化ナトリウム水溶液を複数回扱うことで、8割以上の児童が正しく扱うことができていた。 ●班で行う実験では、技能が高い児童だけが実験を行う傾向があった。より正確な結果を求めるためだったが、全員に確実な技能を身に付けることが課題である。
	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科学的な言葉や概念を使いながら、自然の事物・現象の性質や規則性、相互関係などについて、実感を伴って理解している児童がいる。 ●学習した内容の定着がやや弱いため、実際の自然や日常生活に適用することが難しい児童がいる。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り実物を準備し、それが困難な場合には、ICTを活用することで、児童が新たな知識を獲得できるようにした。 ・単元の終わりに学習のまとめとして、ワークプリントを活用して、既習事項の定着を図るとともに、既習事項については、「東京ベーンシック・ドリル」などを活用し、知識・理解の定着を図った。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「東京ベーンシック・ドリル」及びICTを活用することで、学習の定着を図るとともに新しい知識を獲得することができた。 ●「東京ベーンシック・ドリル」の活用結果、学習内容の理解度及びその定着度に差が見られた。今後も継続して、基礎・底本の定着を図っていくことが課題である。 	